

郷村断層帯・山田断層帯において実施した地形・地質調査（その2：断層破碎帯の観察とESR分析）
Topographical and geological explorations along the Gomura and the Yamada fault zone: Part
2 observation and ESR analysis

*村上 雅紀¹、中村 教博²、福地 龍郎³、今泉 俊文²、西脇 隆文¹、吉崎 正¹、立石 良¹、岡田 篤正⁴、岡田 真介²、大槻 憲四郎⁵

*Masaki Murakami¹, Norihiro Nakamura², Tatsuro Fukuchi³, Toshifumi Imaizumi², Takafumi Nishiwaki¹, Tadashi Yoshizaki¹, Ryou Tateishi¹, Atsumasa Okada⁴, Shinsuke Okada², Kenshiro Otsuki⁵

1.応用地質株式会社、2.東北大学、3.山梨大学、4.京都大学名誉教授、5.東北大学名誉教授
1.OYO Corporation, 2.Tohoku Univ., 3.Univ. of Yamanashi, 4.Emeritus professor of Kyoto Univ.,
5.Emeritus professor of Tohoku Univ.

原子力規制庁からの平成26年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力施設における地質構造等に係る調査・研究（丹後地域における物理探査手法を用いた断層構造調査等））事業の一環として、郷村断層帯・山田断層帯の合計4地域において、活断層の評価手法に関する情報を整理するために、地形・地質調査を行った。本発表では、郷村断層帯・山田断層帯における断層破碎帯の観察と化学分析・年代分析結果を報告する。同断層帯で実施された地表踏査およびトレンチ調査から、断層破碎帯を含んだブロック試料を採取した。採取された郷村断層帯試料の薄片観察から最新活動面と考えられる剪断構造が見つかった。同一箇所では、ESR測定により過去の断層活動による摩擦熱の上昇を示唆する結果が得られたが、ESR信号の減衰・消滅は確認されず、地表断層露頭におけるESR信号のリセットは実現しないことが明らかとなった。

キーワード：ESR分析、郷村断層帯、山田断層帯

Keywords: ESR analysis, Gomura fault zone, Yamada fault zone